

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report 5

2017 No.752

## 3 はじめの言葉

### 4 為政者が恐れる

#### 情報独占のできない社会

田原文夫

権力者にとって、情報社会の恐ろしさは情報保有を独り占めできないことにある。情報を独り占めすることは、すなわちその為政者は独裁者であることを表明するに等しい。絶対君主政治の時代にあつて、独裁者が善政を引いた例がないではない。しかし、国家体制のあり方として、近代ではこれを是とする国が少なくなっている。しかし現実的には、世界的には独裁政治体制を堅持している国が存在している。

## 10 情報社会を考える その80

### 情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

#### 本当の責任者たれ

内憂すなわち国内に問題が多発山積すると、外患に国民の目を向けさせようとするのは政治の常である。まさに今がそうだとやりたいのではない。内憂外患、これが国際時代の常なる状態すなわち常態なのである。しかし、内憂外患の一方を強調して他方を蔑ろにする、あるいは両方を疎かにしてくれては国民が困る。安倍首相はことあることに「最高責任者は私です」を強調するが、果たして本当にそれを認識、自覚しているのだろうかと思えることがある。口先、口癖だけの発言か、それとも国家元首主権者気取りなのか。

## 12 オープンガバメント OG 41

### 情報社会をすすめる

その75

水田 浩

1990年代に紙によるワークフローをデジタルにして、メインフレームと端末を使って事務系、技術系で個別に行われるようになり、1995年代にはインターネットが世界中で使えるようになってきた。そして、個別に開発されたシステムをより早く、より安く、より良くつかうために製品やシステムのライフサイクル全体の統合化を模索するようになっていた。そして、産業別、国別のシステムとデータを世界共通にしてより生産性の高いビジネスをするために、世界共通の情報基盤を作らなければならないという認識が世界中で起こっていた。そこで、CALSの一つの製品、システム、サービスを全ライフサイクルで、「情報は一度つくって、幾度も使う」という運動は世界規模で受け入れられた。一つのCALSという概念(言葉)で1995年から2005年に掛けて世界中が一つになって運動を起こすようになった。

## 1 9 連載 アーキテクチャ論 (73)

### IT4ITの適用法

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

これまで、IT4ITについて、内容[1,2]と適用事例[3,4]について解説してきたが具体的な導入法については触れていなかった。本稿では、IT4ITの適用法を、AkershoekらによるOpen Group Management Guide、IT4IT™ for Managing the Business of IT[5]に基づいて紹介する。

## 2 5 連載 日本再生と人材育成

### 人口減少／少子高齢化時代への挑戦 その28

#### 人材フル発揮のための就職/転職のステップとポイント Dr.ベスト

日本の人口減少/少子高齢化時代の原点にもどると、この先一人ひとは極めて貴重な人材（人財）であり、その意思と能力をいかにフル発揮できる仕事に就き、その活動を通して最大限の成果が得られるような働く仕組みを準備・提供していくかが喫緊の課題であるといえよう。人口減少／少子高齢化時代において最も重要なことは、数少ない人材のほとんど全員が自分の意思と能力にマッチした仕事に就き、その意思と能力がフルに発揮されるような状態が実現できることである。

## 3 2 IT新時代とパラダイム・シフト

### 第90回 キャッシュアウトサービス解禁で

#### 注目されるデビットカードの課題 根本忠明

デビットカードの規制緩和でキャッシュアウトサービスが受けられると、マスコミが騒いでいる。スーパーなどでの買い物でこのカードを使えば、現金（預金口座から）も一緒に引き出せるサービスである。しかし、日本は欧米中に比べてデビットカード後進国である。政府は2020年の東京オリンピックにあわせて、このカードの普及を急いでいる。今回の規制緩和が、このカードの普及につながるかどうかは、今後のIRF（カード発行者手数料）のあり方が鍵を握っており、アメリカの事例も含めて検討してみる。

## 3 6 続インテリジェンスへのいざない 88

### 表面化する驕りと緩み

#### 止まらない政治家の軽口 今井 武

救いようがない大臣が勢揃いしている。いずれも自らのお粗末な発言で、文字通り、自滅している。こうした大臣が次々と問題発言をする最大の理由は、驕りと緩みである。相対的に野党勢力が弱すぎるとも言える。それにしても、何とかならないのだろうか。

## 3 9 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまチヒロ

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

**CR選書**

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁 石井義興 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの構造と	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**実践データ・ウェアハウス OLAP**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁 豊島一政・木村 哲 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁 田原文夫 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの落とし穴**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁 一橋大学教授 安田 聖 監修 aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛セキュリティ心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2016年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の情報システム革新**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁 高田 顯重 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁 安田 聖 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

『いざ！というときの得広報』  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁 加藤洋一 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売れない企業体質
■ ニュースリリースは東方向運賃	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー—  
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁 迫 忠幸・湯浅 誠 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米商チーム崩壊の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米商事務所移転と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開発フル稼働とバリエーション
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米商チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働中の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米商チーム、異なる三人組	第二十章 稼働中の二 安眠薬と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)